

# 新文化 「光和コンピューター セルフレジ販売へ」

2020年(令和2年)3月26日

光和コンピューター

## セルフレジ販売へ

### 価格170万円、雑貨・文具にも対応

光和コンピューターはこのほど、セルフレジを開発し、6月をめぐり販売を開始する。人手が足りないという書店経営者の要請に応える。セルフレジはJANコードが付いた本、雑貨・文具など、すべてに対応するもの。他のメーカーで開発された既存のセルフレジの価格は300万円程度だが、同社では約10万円という廉価で販売する予定だ。

光和コンピューターが、同社が標準POS販売するセルフレジのハードウェアはどのメーカーにも対応している。釣り銭機はグローリー製の「釣り銭機」を標準仕様とした。

釣銭機を一体収納できる什器とセットで販売する。その大きさは幅約80センチ、高さ約1・3メートル。同社では5月から、書店でテストを行った後、販売を開始する予定。販売目標について、同社の多田元晴取締役は「まずは30台、年間で100台を目指したい」と話す。

例えば、100坪の売場をもつ書店であれば1台、300坪の書店には2台の導入を提案している。同社には、書店経営者から社員が減りアルバイトの手配がつかないという理由から、セルフレジを開発してほしいという声が複数寄せられていた。

セルフレジを導入することにより、書店の人員費削減に寄与していく。書店は導入後、セルフレジの操作に不慣れな客をサポートする書店員が必ずあるが、客が慣れれば、「無人」で運用できるとみている。今後、通常のレジ台と合わせて運用する書店が増えそうだ。

ブックカバーについては、客自身で付けられるよう、セルフレジの近くに置いて、自由に持ち帰ってもらうことを想定している。

また、7月から有料化が義務付けられるレジ袋もセルフレジ周辺に置き、精算できやまのナパレーションを提案する。